

**研究テーマ：初歩的な英語を使い会話を続けることができるための指導の工夫**

所属 高知市立行川中学校

氏名 谷内美佳

RG JH1

**1 研究の背景**

授業中でもその他の場合でもよく見かけるのは、あらかじめ考えていた答えは言えるが、急に話しかけられるとどんなに簡単なことにも答えられないという場面である。また、一言の返事で終わってしまい会話が続かないということも多い。なぜ知っているはずの初歩的な英語が使えないのか。英語を使うことへの抵抗感をなくし、習った表現を日常の場面で使えるようにするにはどのような指導が必要だろうか。

**2 リサーチクエスト**

初歩的な英語を使い簡単な会話を続けることができるような指導を、週 3 時間という限られた授業の中でどのように取り入れていくか。

**3 予備調査**

行川中学校は各学年一クラスのみ（1 年生 8 名、2 年生 14 名、3 年生 12 名）である。各クラスの様子がかなり違うので、今回は 1 年生のみを対象に行った。1 年生は学力レベルが似通っており、際立って高レベル、低レベルの生徒がいない。また内気で消極的な生徒ばかりで、どの授業でもあまり積極的に発言できない。しかし、学習に対しては非常にまじめで、与えられた課題はきちんとこなそうとし、日々の積み重ねはある程度できていると思う。

**予備調査 1 授業観察の結果**

簡単なあいさつや、現在学習中のことについては全員が受け答えできている。しかし、前に習ったことを忘れてることが多く、組み合わせる使うことができず応用が利かない。決められた状況の中では英語を使えるが、なにげない場面で尋ねられたごく簡単な問いには知っているはずの英語で答えることができない。また、内気さや受け身的な態度から会話を続けることが難しい。

**予備調査 2 授業アンケートの結果**

学習の内容や先生の説明はほとんどの生徒が毎回「わかった」と答えている。しかし「楽しい」と感じたり、「あっ、そうか」と思ったかについては、「はい」の回答が少ない。この「楽しい」についてはゲームなどをすると評価が高くなるのだが、英語での会話自体を「楽しい」と感じることは少ないようだ。また、「英語を使って積極的に表現することができたか」についても自己評価が低く、発言、発表ができていても「英語を使って表現できた」と思っていない。

**4 仮説の設定**

仮説 1 英語に慣れさせ、使うことへのためらいをなくす。英語を使えることが「楽しい」と感じさせる。

仮説 2 会話を続けるための語彙や慣用句を増やす。習ったことを蓄積していき、使えるようにする。

仮説 3 Native speaker と話す機会を増やし、初歩的な英語での会話が抵抗なくできるようにする。

## 5 計画の実践

- (1) 授業は最初の Warm up は習っていない語句があっても、できるだけ英語のみで行う。ALT とのゲームを入れる場合でも同様にする。授業中の指示等の英語もさらに増やす。Warm up でも授業中のほかの場面でも日本語の説明なしで英語を聞いてわかったと感じさせ、自信を持たせる。またそれに対し生徒からも英語で反応を返すように常にしむけ、間違いや不十分さにはこだわらずに英語で会話していると実感させる。
- (2) ALT にも協力してもらい、教科書で扱っていなくても日常的によく使われる語や慣用句も取り入れて「今月の英会話」のような教材を作る。初歩的な英語にとどめ、定着を目指し少数のものを反復するようにする。5分程度の短時間で行い、無理なく継続できるようにする。基本表現が身に付いたら、少しずつ変えて応用できるようにしていく。
- (3) ALT による Speaking Test を取り入れ、定期テストの一部とするか、評価に含むこととし、生徒にも伝えておく。ALT との授業の時は、全員が1度はALT と会話できるように計画しておく。

## 6 実践の結果と検証

- (1) 生徒の反応が悪いとつい日本語を使ってしまい、英語だけとはいかなかったが、ほぼ英語だけでという場面は増やすことができた。その結果、英語を聞いて動くことができ、英語がわかるという自信を持たせることはある程度できたと思う。ただ英語で会話することが楽しいというところまではいかず、その後の授業アンケートでもあまり大きな変化は見られなかった。
- (2) 取りかかりが遅くなってしまい、短期間しか実践できなかった。5分程度と決めていても、やっているうちに時間オーバーしてしまうことも多く、授業進度も気になり、毎時間継続することができなかった。生徒たちはその場では表現できており、会話で使える語彙や慣用句を少し増やすことができた。しかし、それを身に付け、会話を続けるときに使えるところまでは到達していない。
- (3) 定期テストの一部にはできなかったが、評価に含むということでALT による Speaking Test を行った。生徒は緊張し、声も小さかったが、熱心に取り組み、よい刺激になった。予想どおり、あまり差はなかった。継続していけば会話を続ける力につながっていくはずである。ALT との全員の会話では、問いかけに一言答えて終わりにならないよう、もう一文付け加えるか相手にも問い返すルールにしたが、かなり時間をとってしまい、少人数でも毎時間は無理であった。やり方を工夫し、時間をかけすぎないことで継続していきたい。

## 7 成果と今後の課題

英語に慣れさせることには成果が見られ、Listening の力が伸びていると思う。また語彙力も少しずつついてきている。しかし、何とかして会話を続けたいという意欲はなかなか出てこない。自信を持たせること、多少間違っても気にせず英語で話せることが楽しいと感じさせることが必要なのだろう。

日々の忙しさに追われて2学期も取りかかりが遅く、計画、準備ともに不十分で予定通りの実践ができなかった。実践のためには先を見通した計画と継続することが必要だということを思い知らされた。また短期間でも当然効果はあがらず、ある一定期間以上継続して実践しなければならない。今後はこの時間確保をどうしていくかが一つの大きな課題でもある。仮説の設定と実践の方法についてもいまだによくわからず、暗中模索の状態である。勉強していかなければならないと思う。

